



目と耳と心で聴く子

六 甲山の山並みの緑が日に日に深みを増してきました。見ていてとても気持ちがいいです。先月は雨の日も多く、爽やかな気候の日が少なかったですが、晴れた日に渦っ子たちが校庭で元気いっぱい走り回る姿が素敵でした。これから気温もぐんぐん上がってきますが、コロナ感染症だけでなく、熱中症にも留意しながら、元気な学校生活を送ってほしいと思います。

授業中の教室を見に行くと、様々な場面に出会います。「発言」という場面だけでもいろいろです。いつも積極的に発表する子もいれば、わかっていてもなかなか手を挙げられない子もいます。発表するときでも、小さな声で単語だけつぶやいて座る子もいます。指名されても黙って下を向いてしまう子もいます。私は担任をしていた時、右のような掲示を教室にしていました。なかなかその通りにはなりませんでした。が、「1年かけてできるようになろうね。」と声を掛け、少しの成長を見付けてその成長をほめるようにしていました。

発表のあいいうえお
あ…あいてに聞こえる声で
い…いそがずゆっくりと
う…うつむかないで
え…えがおで
お…おわりまでしっかり話そう

- ・教室中のみんなに聞こえるような声で発表できるようになった
- ・「わかりません」と自信をもって言えるようになった
- ・「〇〇さんと同じで…」 「△△さんとは違って…」と言えるようになった
- ・「私は・・・と思います。なぜかという、・・・だからです。」と、理由を付け加えて発表できるようになった

などなど、日々接していると、小さな成長を発見できる瞬間が多々あります。周りの友達や教師や大人がその成長に気づき、評価していくことで、少しずつ自分の考えを表現できる機会が増えていけばいいですね。そのためには、周りの人たちが「友達の話を聞ける子供になっているかどうか。」が大切になってきます。「何を話しても、聞いてもらえる。」「間違っている、笑われたり馬鹿にされたりしない。」という安心感が大切です。

今年度の渦が森小学校の重点目標は「目と耳と心で聴く子」です。その目標を達成するために、それぞれのクラスで試行錯誤しながら日々学習活動を進めています。友達の考えを周りの仲間が聴き、自分の考えと比べたり付け足したりして考えを深め、子供同士が学び合うことを、これからも大切にしていきたいと思っています。

校長 多田 英彦

